

5 教育委員会所管事務事業にかかる点検・評価

事業評価の性質について

- ↑…指標の実績値が計画値を上回る方が良い
- ↓…指標の実績値が計画値を下回る方が良い
- =…指標の実績値と計画値が等しくなる方が良い

施策：2121 家庭教育の推進

〔平成30年度 目指すべき姿〕 **取組**・保護者に対して学習機会を提供したり、啓発パンフレット等の配布を行うことにより、家庭での **維持** 教育力を向上させる。

☆☆☆	施策評価の理由	すこやかネット事業等を通じて、学校園・地域・家庭が協働し、基本的な生活習慣の定着等の啓発を実施し、家庭教育の推進を図ることができた。
	成果と課題	小・中学校で実施している家庭教育学級の参加者アンケートでは肯定的評価が高く、家庭教育力の向上を図ることができた。保護者だけでなく、社会総がかりで子どもを育てる環境づくりが必要である。
	令和元年度への対策・対応	保護者や地域住民を対象とした家庭教育に関する学習機会の提供や各種啓発パンフレットの配布等により、市民の家庭教育力の増進を図る。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全9事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆	212102	草の根家庭教育推進事業	就学前・思春期家庭教育学級参加者の肯定的評価(%)	95.0	95.3	↑
☆☆☆	212107	早寝早起き朝ごはん事業	中学生の朝ごはん摂取率(%)	82.7	77.8	↑

施策：2125 子育て家庭への経済的負担の軽減

〔平成30年度 目指すべき姿〕 **取組** 施策を構成する各事業を適正に実施し、継続的に子育て支援に取り組み、子育て環境の整備、経済的負担の軽減を図る。

☆☆☆	施策評価の理由	施策を構成する各事業は概ね目標どおり実施され、子育て家庭の経済的負担の軽減を図ることができた。
	成果と課題	各事業を適切に実施することにより、子育て家庭の経済的負担の軽減を図ることができた。国・県等の制度の変更に的確に対応し、子育て支援に継続的に取り組む必要がある。
	令和元年度への対策・対応	国・県等の動向や子育て家庭の状況を把握し、各事業の適切な執行に努め、子育て家庭への経済的負担の軽減を図り、効果的な子育て支援に継続して取り組む。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全17事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆☆	212502	私立幼稚園就園奨励費補助事業	補助金交付者数	1,130	1,307	評価対象外
☆☆☆	212507	就学援助事業	就学援助認定者数	2,634	2,590	
☆☆☆	212515	大学等入学支度金支給事業	支度金支給者数	30	25	

施策：2211 自ら学び自ら考える力を育む教育の推進

平成30年度
目指すべき姿

取組
維持

新学習指導要領で示す新しい時代に必要となる資質・能力の育成を図るための「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善を図る。全国学力・学習状況調査等により明らかになった本市の学習状況の課題に対し、教育委員会、学校、家庭の連携のもと、具体的な施策を実施する。学力向上プランに基づいた各学校の取組について、進行管理を行う。放課後学習推進事業や子どもサポーター派遣事業等の実施を通じ、学力低位層への個別指導を充実させる。

☆☆☆	施策評価の理由	全国学力・学習状況調査を活用した本市の学力の実態把握・分析に基づき、授業改善に向けた各学校への指導助言を行うことができた。また、各校の学力向上プランに基づいた取組の進捗を管理することができた。加えて、個々の課題に応じたきめ細かな指導の充実のための学力向上支援教員を配置することができた。
	成果と課題	求められる資質・能力を視点においた授業改善を行うことができた。また、全国学力・学習状況調査において、平均正答率が全国平均を上回るなど、学力を着実に向上させることができた。学力低位層への指導を継続して行うとともに「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力、人間性等」の一体的な育成が必要である。
	令和元年度への対策・対応	「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善による基礎的な力と活用する力との一体的な育成と、放課後学習推進事業や子どもサポーター派遣事業等の実施を通じた学力低位層への個々の課題に応じた指導を充実させる。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全9事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆	221114	学力向上支援教員配置事業	配置校の全国学力・学習状況調査の平均正答率対全国平均正答率(%)	-5	-4	↑
☆☆☆☆	221113	土曜学習事業	延べ参加者数	14,000	14,437	↑

施策：2212 新たな社会への対応力を育む教育の推進

平成30年度
目指すべき姿

取組
維持

- ・学校園の情報教育に係る環境整備を充実させる。
- ・プログラミング教育の円滑な導入に向けた調査研究を実施する。
- ・グローバル化を見据えた英語教育の充実を図る。

☆☆☆	施策評価の理由	ICTを活用した授業時数について、実績値が計画値を大幅に上回るなど、ICTを活用した授業を促進することができた。 中学校3年生における、英検3級程度の英語力を有する者が計画を上回るなど、英語教育の充実を図ることができた。
	成果と課題	情報機器の整備・更新及び、担当者会や情報教育研修会、学校園別コンピューター研修会等を通してICTを活用した授業の促進を図ることができた。引き続き効果的なICT活用を促していく必要がある。英語教育においては、中学校3年生において、英検3級程度の英語力を有する者が59.0%にのぼるなど、成果が見られた。新学習指導要領において求められる英語力の育成に向け、小学校外国語教科化に向けた体制整備と、小・中の接続について更なる研究が必要である。
	令和元年度への対策・対応	タブレット端末を各小・中学校に40台導入し、WiFi環境の整備を行う。また、中学校ファイルサーバー更新にあたり、災害時や個人情報管理等の安全性を高める対策を検討する。効果的な利活用を推進するとともに、令和2年度の小学校におけるプログラミング教育必修化に向け、モデル校での調査研究の成果を他校へ発信していく。英語教育の充実について、小学校においては、外国人英語指導助手や専科教員等を活用し児童が英語を活用する機会を充実させる。中学校においては、全国学力・学習状況調査の結果分析を行い、さらなる授業力向上に向けた研究を行う。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全8事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆☆	221206	情報教育推進事業	ICTを活用した1クラスあたり月平均授業時間	26.5	37.9	↑
☆☆☆	221213	グローバル化に向けた英語教育推進事業	中学3年生英語力（英検3級程度）(%)	55.0	59.0	↑

施策：2213 伊丹ならではの特色ある教育の推進

平成30年度
目指すべき姿

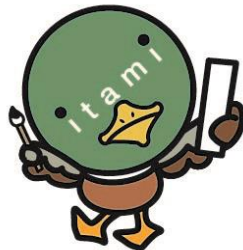
取組
維持

・「『読む・書く・話す・聞く』ことば文化都市」として、伊丹ならではの教育の充実を図る。
・幼（H30）、小（R2）、中（R3）における新学習指導要領全面実施を踏まえた教育内容等、社会総がかりの教育として、様々なメディアを通して広く市民にアピールする。

☆☆☆	施策評価の理由	年3回発行する広報誌を、ホームページに掲載し、自治会回覧板で回覧したことで、市民からの問い合わせが入るなど、一定の周知ができた。 学校図書館と「ことば蔵」が連携し、読書教育の推進・充実を図ることができた。
	成果と課題	児童生徒の読書習慣の定着に向け、読書教育を推進することができた。アピールについては、様々な方法で周知することはできたが、市民の中には「見るまで知らなかった」という声もあったので、引き続き様々な方法で周知を続けていく必要がある。
	令和元年度への対策・対応	伊丹ならではの教育としての読書教育の推進のため、学校図書館の充実を図るとともに、学校園での配布だけでなく、引き続き自治会回覧板を活用し、広く市民に周知していく。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全3事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆	221303	学校図書館活性化事業	小・中学校の児童生徒一人あたりが1ヶ月に読書した冊数（冊）	8	10.8	↑



施策：2214 魅力ある市立高等学校づくり

平成30年度
目指すべき姿

重
点
化

より多くの生徒に選ばれる学校を目指して特色化・活性化を推進する。生徒の幅広い進路志望に対応するため、市立高校ならではの取組を推進する。令和2年度から始まる「大学入学共通テスト」に対応するため、主体的・対話的で深い学びにつながる取組を推進する。

☆☆☆	施策評価の理由	イングリッシュサマーセミナー等の学校行事、英検対策講座等の講義を実施し、グローバル人材の育成に学校全体で力を入れることができた。すべての生徒の希望進路実現に向け、補習授業や放課後特別学習を実施することにより、生徒が進学先の選択にあたって目標を高く持つことができた。
	成果と課題	英語能力検定試験準2級程度以上の英語力を有する者の割合が昨年度より上昇し、計画値も大きく上回った。大・中規模の私立大学の入学定員の厳格化に伴い合格者数は減少しているが、実進学者数には大きな影響は出なかった。新学習指導要領及び「大学入学共通テスト」への対応のため、授業改善及びカリキュラムマネジメントの実現を図り、21世紀型学力の達成を目指していく必要がある。
	令和元年度への対策・対応	「グローバル人材育成プロジェクト」に基づき、論文作成や「課題研究」等、探究的な学習を実施する。また、キャリア教育の推進を目指し、「キャリアプランニング能力」を育成する。イングリッシュキャンプ、イングリッシュサマーセミナーに加え、思考ツールの活用等の新しい取組を実施するなど、21世紀型学力の達成に資する取組を進める。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全4事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆	221401	市立伊丹高校活性化事業	国公立大学合格者数	20	8	↑
☆☆☆☆	221402	市立伊丹高校特色化事業	英検準2級程度学力保持者の割合(%)	60	76.3	↑

施策：2215 特別支援教育の推進

平成30年度
目指すべき姿

取組
維持

改訂版「今後の特別支援教育のあり方について」（基本方針）に基づき、各学校園において特別支援教育を推進する。個々の幼児児童生徒の実態を的確に把握して個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、個に応じた指導内容や指導方法の計画的な実施を推進する。「合理的配慮の提供」等の教職員研修を実施し、教員の専門性の向上を図る。

施策評価	施策評価の理由	幼児児童生徒の状態に応じた学びやすい教育環境等についての研修を実施し、教職員の資質向上を図ることができた。個々の実態を的確に把握して個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成及び活用を啓発することができた。
☆☆☆	成果と課題	教職員を対象に特別支援教育に関する研修会を実施し、教職員の専門性の向上を図ることができた。また、個別の教育支援計画の作成にあたっては、特別な支援に対する認知が進んだことから、作成が必要とされる幼児児童生徒が増加した。それにより、作成人数は増えたものの、割合は計画値を下回った。今後は、特別な支援を要する幼児児童生徒の増加に合わせ、個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成・活用をさらに推進していく必要がある。
	令和元年度への対策・対応	福祉関係機関との連携をより一層推進する。個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成及び活用の啓発を行い、一人ひとりの障害の状態や教育的ニーズ等に応じた支援を行う。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全11事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆	221501	伊丹市特別支援教育審議会事業	個別の教育支援計画作成人数の割合（％）	89	76	↑
☆☆☆☆	221514	伊丹特別支援学校活性化事業	自立活動研修会及び理学療法士等を活用した回数	48	55	=

施策：2221 豊かな心を育む道徳教育、情操教育の推進

平成30年度
目指すべき姿

取組
維持

・児童生徒がよりよく生きるための基盤となる規範意識、生命の尊重、思いやり等の道徳性の育成を目指し、「考え・議論する道徳」の充実を図る。
・キャリア教育を通して育成すべき力（人間関係形成・社会形成能力、課題対応能力、自己理解・自己管理能力、キャリアプランニング能力）を身につける授業を推進する。
・児童生徒の自尊感情を育み、より豊かに生きる力を育成するための、体験活動等を実施する。

施策評価	施策評価の理由	個々の事業において概ね目標を達成できており、道徳の教科化に向け、「考え・議論する道徳」の研究を進めることができた。
☆☆☆	成果と課題	行事や授業・「トライやる・ウィーク」での体験等を通して、自尊感情を高める活動ができた。児童生徒のより豊かな心の育成に向け、キャリア教育に視点を当てた教育活動の推進を更に行うとともに、引き続き「考え議論する道徳」の実践を行う必要がある。
	令和元年度への対策・対応	キャリア教育の研究の継続や、児童会・生徒会等の活性化、地域と連携した体験活動等の充実を図るとともに、道徳科における授業の研究を進めていく。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全10事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆☆	222107	「トライやる・ウィーク」事業	参加生徒数（人）	1,659	1,646	=
☆☆☆☆	222113	道徳教育推進事業	研修会の開催回数（回）	6	18	↑



施策：2222 子どもの問題行動への対応

平成30年度
目指すべき姿

重点化

スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の効果的な活用を通し、学校、家庭、地域、関係機関等の連携した取組を進める。問題行動や不登校児童生徒数の減少に向け、未然防止・早期対応の充実を図る。学校、家庭、地域、関係機関と連携し、いじめ防止等の取組を充実するとともに、いじめを積極的に認知し早期解消を図る。

施策評価	施策評価の理由	定期的にスクールソーシャルワーカーを派遣し、関係機関等と円滑に連携したことで、小・中学校の問題行動を減少させることができた。
☆☆☆	成果と課題	スクールソーシャルワーカーの人員増及び潜在していた事案への対応が進み、各校園への派遣回数を大きく伸ばすことができた。それにより、児童生徒の背景にある環境改善を図り、小・中学校の問題行動件数の減少につながった。一方、小・中学校の不登校児童生徒数が増加していることに対し、要因の分析の上、取組を進める必要がある。
	令和元年度への対策・対応	「チームとしての学校」の実現に向けて、より柔軟にスクールソーシャルワーカーを活用し、関係機関等と連携を密にすることで問題行動や不登校児童生徒を減少させる。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全7事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆☆	222201	スクールサポート事業	スクールソーシャルワーカーの学校・家庭・関係機関等への訪問回数	1,000	4,533	↑

施策：2223 子どもの健やかな体づくりと部活動の推進

平成30年度
目指すべき姿

取組維持

- ・伊丹市体力・健康づくり推進プランに基づき、児童生徒の体力向上に向けた具体的な取組を推進する。
- ・外部指導者の適切な配置や、県大会、近畿大会出場助成制度などの活用により、中学校の運動部活動の振興・充実を図る。
- ・薬物乱用防止教育等をはじめとする健康教育の充実を図る。

施策評価	施策評価の理由	体育授業開始時等における体力向上に向けた様々な取組により、小学生の体力は全国平均並みに、中学生の体力は全国平均以上に向上させることができた。 また、部活動の各種大会においては、上位大会に出場する等、活躍できた。
☆☆☆☆	成果と課題	全国体力調査の結果から、小学校男子及び中学校男女は全国平均を上回り、小学校女子は全国平均をやや下回る結果であった。悉皆となった平成25年度以降、小学校は男女とも、年々体力が向上している。また、大きな課題の一つであった小学校の持久力も、ほぼ全国平均並みに向上した。
	令和元年度への対策・対応	小学校は筋力や持久力の、中学校は投力や柔軟性の向上に向け、児童生徒の発達段階や各校の実態に応じた取組を計画的・継続的に実施することで、児童生徒の体力の向上を図る。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全10事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆☆	222303	中学校運動部活動外部指導者派遣事業	外部指導者配置数（人）	20	20	=
☆☆☆☆	222304	県大会、近畿大会助成制度事務	出場者数（人）	350	427	↑
☆☆☆☆	222313	体力・健康づくり推進事業	全国体力調査の全国平均を100とした時の小学校の指数	100.0	100.0	↑
☆☆☆☆	222313	体力・健康づくり推進事業	全国体力調査の全国平均を100とした時の中学校の指数	102.0	103.4	↑

平成30年度
目指すべき姿

取組
維持

- ・「伊丹市食育推進実践計画(いたみ食育プラン)」に基づき、児童生徒の食に関する正しい知識と判断力を育む。
- ・「食に関する指導」「給食に関する指導」「おやこ料理教室」「学校給食献立コンクール」「食育講演会」等の実施により、健全な食生活の普及啓発を図り、児童生徒の健康づくりを推進する。
- ・伊丹産や兵庫県産の食材を積極的に取り入れ、地産地消の推進に努めるとともに、残食軽減を目指す取組を進める。

☆☆☆☆	施策評価	
	施策評価の理由	「食に関する指導」や「給食に関する指導」、「学校給食献立コンクール」等の様々な取組を通して、食育の推進を図ることができた。 また、安全性の確保を最優先にしたアレルギー対応食(「卵」除去食)の提供を小・中ともに実施することができた。 さらに、学校園におけるアレルギー対応の充実を目指し「伊丹市学校園におけるアレルギー対応マニュアル」を改訂した。
	成果と課題	「食に関する指導」や「給食に関する指導」、「学校給食献立コンクール」等の様々な取組をとおして、食育の推進を図ることができた。また、アレルギー対応食の提供、「アレルギー対応マニュアル」の改訂、県産品を利用した「おやこ料理教室」の開催等を計画的に実施することができた。 今後も引き続き、安全・安心な給食の提供と残食軽減の取組を進めていく必要がある。
	令和元年度への対策・対応	「食に関する指導」や「給食に関する指導」、「学校給食献立コンクール」等、関係部局と連携を図り、食育の充実を図るとともに、関係機関と連携を図り、地産地消の取組を推進する。 アレルギー対応食(「卵」除去食)の提供については、引き続き、安全性の確保を最優先に実施する。 さらに、定期的に調査を行うとともに、給食アンケート結果をもとに、各小・中学校と連携を図り、残食軽減の取組を推進する。

施策目標を達成するために実施した主な事業(全3事業)

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆☆	222401	健全な食生活推進事業	「給食に関する指導」「食に関する指導」の指導年間実施回数	245	232	=
☆☆☆☆	222401	健全な食生活推進事業	地産地消の推進(県産食材の使用割合<食材数ベース>)	26.0	31.2	↑

施策：2231 学校園情報の積極的な発信と学校園運営への市民参画

平成30年度
目指すべき姿

重
点
化

- ・教育の現状や課題を市民と共有するため、積極的にホームページ更新、リーフレット等の配布、意見交換会等を行う。
- ・学校園・家庭・地域の連携を強化するため、学校運営協議会の設置と運営の充実を図る。
- ・設置後の円滑な運営に資するため、学校運営協議会と地域学校協働本部との一体的な活動を推進する。

☆☆☆	施策評価の理由	リーフレットやホームページ等を通して、教育情報を発信することができた。 新たに小学校6校、中学校1校に学校運営協議会を設置することができた。
	成果と課題	市民意識調査の結果から、伊丹の教育施策について一定の市民理解は得られている。より一層の周知のためには、新しい情報発信方法を考えていく必要がある。 学校運営協議会の設置について、計画通り進めることができた。学校運営協議会設置後は各協議会の円滑な運営と取組の充実に向け、効果的な取組についての情報提供や各協議会のニーズに応じた支援について研究を行う必要がある。
	令和元年度への対策・対応	自治会回覧等を通して、より広く市民に伊丹の取組を周知していく。 学校園・家庭・地域の連携を深め、学校運営協議会と地域学校協働活動との一体的な推進についてさらなる研究を行う。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全6事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆☆	223104	伊丹市学校支援地域本部事業	伊丹市学校支援ボランティア人材バンク登録者数	625	761	↑
☆☆☆☆	223107	コミュニティ・スクール設置事業	コミュニティ・スクールの学校数（単年度）	7	7	↑

施策：2232 安全・安心な学校園づくり

平成30年度
目指すべき姿

取
組
維
持

- ・児童生徒等の安全の確保を図るため、各学校園での危険等発生時を想定した様々な訓練等を通して、教職員が適切に対処できる実践力の向上を図る。
- ・児童生徒等自身が、自分の命は自分で守ることができるよう、危機対応能力を育成する。
- ・老朽化が進む校舎の大規模改造工事等を計画的に実施し、安全・安心な教育環境の維持向上を図る。

☆☆☆☆	施策評価の理由	園児・児童生徒の危機対応能力の育成を図り、各学校園において、計画通り、防災訓練や教職員対象の心肺蘇生法講習会を実施するとともに、大規模改造工事等、施設の安全性向上に資する整備を実施することができた。
	成果と課題	心肺蘇生法講習会等、様々な取組を通して、園児・児童生徒及び教職員の危機対応能力の向上を図ることができた。また、学校園においては、大規模改造工事等を計画的に実施し、安全・安心な教育環境の維持向上を図ることができた。安全安心な学校園づくりのための取組を効果的なものとするため、実施時期や内容等について、毎年見直す必要がある。
	令和元年度への対策・対応	園児・児童生徒が、安全安心な学校園生活を送ることができるよう、計画的な防災訓練や教職員対象の心肺蘇生法講習会等の実施、施設の整備を行う。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全13事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆☆	223212	教職員対象心肺蘇生法講習会	心肺蘇生法講習会受講者数	560	507	↑
☆☆☆☆	223206	学校園防犯訓練・防災訓練	警察と連携した防犯訓練の実施小学校数	17	17	=
☆☆☆☆	223207	学校施設の大規模改造等事業	工事実施校数	10	10	=

施策：2233 教職員の意識改革と資質の向上

平成30年度
目指すべき姿

取組
維持

授業力向上に関する研修、トップリーダー研修、ミドルリーダー研修、若手教員の育成やいじめの未然防止につながる研修など、本市の課題に即した研修を実施する。教員のニーズをふまえ、適切なテーマの設定、講師の選定、研修形態の工夫等により研修内容を充実する。校内研究や自己研修、グループ研究の活性化に向けて、指導主事・授業力向上（カリキュラム）支援センターコンサルタントによる支援を行う。

☆☆☆☆	施策評価の理由	教員のニーズに応じた研修を計画的に実施し、資質の向上を図ることができた。
	成果と課題	若手教員・ミドルリーダー・トップリーダーの経年研修等を充実し、教職員の資質向上及び意識改革を図ることができた。教員の授業力向上に向け、今後も継続して研修等を実施し、更なる教職員の資質向上に努める必要がある。
	令和元年度への対策・対応	ミドルリーダー養成研修のカリキュラムを改善し、主体的に学校園経営に参画する中堅教員を育成するとともに、トップリーダー研修のカリキュラムについても検討する。また、若手教員が増加する中、初任者研修における学校訪問指導について、指導主事や授業力向上（カリキュラム）支援センターコンサルタントによる個別指導・支援を充実させる。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全6事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆☆	223301	学校力アップ事業	研究発表校数（校）	9	9	=
☆☆☆☆	223304	初任者・経年研修事務	市教育委員会主催の研修会1人あたりの参加回数	8	8	=
☆☆☆	223306	教職員のための各種講座及び研修・研究活動	研修受講者満足度割合(%)	97	97.1	↑
☆☆☆☆	223307	授業力向上（カリキュラム）支援センター事業	自主研修利用者数	1,500	1,903	↑

施策：2311 市民の主体的な学習や活動の支援

平成30年度
目指すべき姿

取組
維持

- ・生涯学習ボランティアの育成、支援を継続する。
- ・市民の参画と協働による学びの場を拡充する。
- ・学習成果の地域還元を推進するコーディネート機能を充実させる。

☆☆☆	施策評価の理由	「学びによる地域活性化支援事業『まちなか公民館』」として、「いたみに学びを拡散！学びの仕掛人養成講座」を開催し、市民の情報交流を進めることができた。
	成果と課題	講座を通して市民の企画力を高め、実践活動につなげていくことが課題である。
	令和元年度への対策・対応	「いたみに学びを拡散！学びの仕掛人養成講座」を継続実施し、地域人材の育成をさらに進める。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全5事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆	231105	講座等生涯学習活動支援事業	事業参加者数	15,500	14,368	↑
☆☆☆	231107	まちなか公民館事業	学習グループの地域派遣件数	40	40	=

施策：2312 社会教育施設等の効果的活用

平成30年度
目指すべき姿

取組
維持

- ・ホームページ等による学習情報や各種イベントの情報発信を充実させる。
- ・社会教育施設の特徴や長所を活かした事業を展開する。
- ・他施設、企業、地域等と連携した参画と協働による事業を推進する。
- ・複雑化する市民ニーズに応えた多様な学習機会を提供する。

施策評価	施策評価の理由	ホームページ等を通じた情報発信を積極的に行いながら、各社会教育施設の特徴を活かした事業を実施できた。
☆☆☆☆	成果と課題	様々な主体との連携による参画と協働により幅広い事業を展開し、市内外へ広く事業PRできた。今後、実施検討していく事業については、的確な市民ニーズの把握が必要となる。
	令和元年度への対策・対応	参画と協働により幅広い展開ができた事業については、現在の取組を維持する。また、多様化する市民ニーズに対応した学習機会を提供する方法も検討する。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全16事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆☆	231219	北部学習センター施設整備事業	進捗率（%）	100	100	=

施策：2313 伊丹の特色を活かした学びの創出

平成30年度
目指すべき姿

取組
維持

- ・市民と共に、図書館本館「ことば蔵」の様々な事業等を実施する。
- ・市民の生涯学習を支援するため、図書館資料の整備充実を図る。
- ・歴史・文化財をテーマとした講座等を通じて、郷土の魅力を発信する。

施策評価	施策評価の理由	図書館事業については、市民と共に魅力ある事業を数多く実施することにより新聞等にも掲載され、市内外へ「ことば蔵」及び伊丹市をPRすることができた。蔵書冊数も順調に増やすことができた。 博物館事業については、昨年度に引き続き、市域航空写真の複製や、「ことば蔵」・伊丹酒造組合と共催し講座「やさしい古文書教室」を「ことば蔵」で開催する等、郷土の魅力発信に向けた博物館蔵資料の有効活用に資することができた。
☆☆☆	成果と課題	図書館事業については、交流フロア運営会議を中心とした交流イベントを年間250回実施し、新聞等に年間40回掲載された。子ども版運営会議の「こども作戦会議」や「ビブリオバトル中学生大会」などの実施により、若年層のイベント参加を促進することができた。今後も、市民のアイデアを活かしたイベントを実施するとともに、伊丹の魅力を発信できる事業をさらに充実させる必要がある。 博物館事業については、図書館「ことば蔵」で市民が主体的に実施したイベント（「三余学寮歴史セミナー」）に航空写真のデジタルデータを提供し、複製資料を有効に活用した。今後も同様の機会を増やし、さらなる活用を図る必要がある。
	令和元年度への対策・対応	図書館事業については、引き続き運営会議を中心とした交流イベントや、企業や学校等と連携した事業を実施し、「ことば蔵」及び伊丹市のPRをすすめる。魅力的な蔵書構成となるような図書の選定・配架を継続し、貸出冊数及び蔵書冊数の増加を目指す。 博物館事業については、事業を継続することで、画像提供依頼の機会が多いと考えられる中心市街地や空港周辺を写した焼付写真パネルの複製を進め、複製資料のさらなる活用を図る。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全6事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆	231305	図書館本館活動事業（図書の充実・交流事業を除く）	本館貸出冊数	699,000	660,091	↑
☆☆☆☆	231306	「ことば蔵」交流事業	イベントの実施回数	200	250	↑
☆☆☆☆	231308	図書館図書充実（本館、西分室、神	蔵書冊数	619,800	622,997	↑
	231309	津分館、南分館、北分館）				

施策：2321 生涯スポーツの環境づくり

平成30年度
目指すべき姿



初年度となる「伊丹市スポーツ推進計画」に基づき、あらゆる世代の市民が性別、障がいの有無等にかかわらず、気軽にスポーツに親しむことができる環境づくりを推進する。

☆☆☆	施策評価の理由	スポーツ推進員や体育協会加盟各種目協会等との連携により、各種大会やイベント等について計画どおり実施できた。
	成果と課題	スポーツクラブ21会員数及び各種大会やイベント等への参加者数の増加を図るため、SNSやホームページ等を活用し、情報発信を積極的に行う必要がある。
	令和元年度への対策・対応	「伊丹市スポーツ推進計画」に基づき、あらゆる世代の市民が性別、障がいの有無等にかかわらず、気軽にスポーツに親しむことができる環境づくりを推進する。令和2年の「東京2020オリンピック・パラリンピック」、令和3年の「ワールドマスターズゲームズ関西2021」に向けて機運を高めるため、多くの市民が参加できる各種イベント等を検討する。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全3事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆	232101	スポーツの活動支援	スポーツクラブ21会員数（人）	6,000	5,657	↑
☆☆☆	232102	生涯スポーツに向けた環境整備	市民スポーツ祭等参加人数（人）	18,000	14,746	↑
☆☆☆	232103	スポーツ推進計画ハード事業	体育施設の利用者数	850,000	646,597	↑

施策：2322 伊丹の特色・資源・人材を活かしたスポーツ振興

平成30年度
目指すべき姿



・第14回大会の実施により、「伊丹ブランド」として、なぎなた競技を振興する。
・マスコットキャラクター等により、大会の効果的な周知を行い、ふるさと寄附の協力を呼びかける。

☆☆☆☆	施策評価の理由	第14回全国高等学校なぎなた選抜大会を実施することにより、「伊丹ブランド」として、なぎなた競技を振興・周知することができた。
	成果と課題	第14回全国高等学校なぎなた選抜大会を実施し、「伊丹ブランド」として振興・周知できた。今大会は、全47都道府県（101校）から参加があり、報道機関等でも取り上げられるなど盛り上がりがあった。
	令和元年度への対策・対応	今後も、「なぎなたのまち」として、全国高等学校なぎなた選抜大会を効果的に運営し、なぎなたの振興を図る。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全1事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆☆	232201	全国高等学校なぎなた選抜大会	大会参加人数	2,000	2,400	↑



施策：3131 文化財の保存と情報発信

平成30年度
目指すべき姿

重
点
化

- ・歴史遺産・文化財や博物館資料など、伊丹の歴史文化の情報発信を充実させる。
- ・地域と連携した調査、研究を推進し、研究紀要「地域研究いたみ」等で発表する。
- ・伊丹市埋蔵文化財センターにて、埋蔵文化財の保存、管理、活用を行う。

☆☆☆	施策評価の理由	文化財関係事業においては、埋蔵文化財センターで行基に関する展示をする等、伊丹の歴史・文化に市民が触れ合う機会を創出することができた。 博物館事業においては、平成29年度から3カ年計画で刊行する博物館史料集13『有岡城跡』（仮）の2ヶ年度目及び旧村調査を実施し、展示は従来のような「旧村シリーズ」展（一つの旧村を紹介するもの）ではなかったが、過年度に調査報告した西国街道沿道に所在する旧村を改めて紹介することができた。
	成果と課題	文化財関係事業においては、発掘調査報告書の刊行や、埋蔵文化財を紹介する講演会など、文化財の保存だけでなく、活用・情報発信することができた。 博物館事業においては、史料集刊行に向け、旧調査の遺構図トレース・遺物の実測作業、付図作成、瓦の実見及び実測・拓本作業等を行った。旧村史料調査は伊丹郷町（本泉寺）で調査を行い、過去に実施した岩屋地区調査の概要を報告できた。展示は「伊丹市域の西国街道沿道の村々」と題して西国街道沿道の各旧村を紹介し、今後の調査データの再活用への道筋をつけることができた。
	令和元年度への対策・対応	文化財関係事業においては、出土遺物の保管庫を整備し、口酒井事務所等保管の遺物を新保管庫に移し、事務所等の解体撤去工事を行う。 博物館事業においては、史料集13については、本年度が3年目（最終年）であり刊行につなげる。また、旧村調査（山田地区）・展示（口酒井）・報告（北河原）を実施する。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全6事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆☆	313103	文化財発掘調査事業	本発掘調査実施済率（%）	100	100	=
☆☆☆	313105	旧村史料調査事業&「旧村シリーズ」展示	調査・報告・展示件数(件)	3	3	=

施策：3132 文化財を活かしたまちづくり

平成30年度
目指すべき姿

取
組
維
持

- ・文化財ボランティアや文化財保護団体を育成・支援し、伊丹の歴史的・文化的遺産を次世代に継承する。
- ・郷土の歴史・文化に触れ合う機会を充実し、郷土への愛着の心を育む。
- ・文化財保護強調月間に伴う、伊丹市文化財保護啓発事業を通じて、伊丹の歴史・文化財を活用したまちづくりの振興を図る。

☆☆☆	施策評価の理由	民俗芸能講習会（7月）や文化財保護啓発事業（11月）等を通じ、文化財保護団体とともに、市内文化財・歴史遺産に親しむ機会を提供し、郷土愛を醸成することができた。
	成果と課題	文化財保護啓発事業のみならず年間を通じ、文化財保護団体や社会教育施設等と連携しながら、多くの事業を実施できた。市民の興味関心をひくような展示を企画実施することが課題である。
	令和元年度への対策・対応	展示を含め、さらに魅力ある事業を市民が参加しやすい・訪れやすい場所・施設で開催し、さらなる集客に努めるとともに、多くの市民の郷土愛「伊丹愛」の醸成をはかる。また、保護団体主導で事業企画・運営・実施できるよう支援していく。

施策目標を達成するために実施した主な事業（全1事業）

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆	313202	文化財保護啓発事業	事業参加者数	3,000	3,956	↑

次の2事業は施策評価を教育委員会以外の部局が行う施策に位置付けられていますが、事務事業の評価は、教育委員会事務局が行うため、ここに掲載してお知らせします。



施策：9211 人権尊重のまちづくり

平成30年度
事業の目標

取組
維持

小学校（低・中学年）児童対象の学習指導案並びに教材を作成し、小学校（低・中・高学年）児童及び中学校生徒への人権意識の向上を図る。

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆☆	921126	性的マイノリティ教材等作成事業	性的マイノリティに関する教材資料の配布部数	7,534	7,361	=
		事業評価の理由	教材（パンフレット）と学習指導案を作成（小学校低・中・高学年版、中学校版）し、小学校高学年と中学校で作成した学習指導案と教材を活用して授業を実施することができた。また、小学校低・中学年においても、指導主事による公開授業を実施することができた。			
		成果と課題	学習指導案と教材を作成・配布し、小学校高学年・中学校においては授業が、小学校低・中学年においても公開授業が実施できた。			
		令和元年度への対策・対応	小学校低・中学年を含む対象学年全校で授業を実施する。			

施策：2112 保育・幼児教育の充実

平成30年度
事業の目標

重点化

・公立幼稚園2園における預かり保育・プレ保育を試行実施し、全園実施に向けて課題を検証する。
・職員研修やイベント等を通じて、「伊丹市幼児教育ビジョン」の周知や実践、幼児教育の重要性や充実策にかかる周知を図る。

事業評価	コード	事業名	指標名	計画値	実績値	性質
☆☆☆	211231	幼児教育充実施策推進事業	研修会・イベント開催回数（回）	7	8	=
		事業評価の理由	・公立幼稚園2園において、預かり保育・プレ保育を試行実施し、諸課題を取りまとめることができた。 ・職員研修や市民向けイベントを計画通り実施し、幼児教育の重要性等を周知することができた。			
		成果と課題	・預かり保育は保護者の認知度も高まり、年度末には利用者数が増加し、プレ保育については園児募集の方法を状況に応じて変更したことで、利用者が増加した。全園実施に向けて諸課題を整理する必要がある。 ・職員研修では、認可外保育施設も含めて就学前施設全体で実施することができた。また、市民向けイベントについては、当初の計画より多く開催し、子育て世代の市民に「伊丹市幼児教育ビジョン」や幼児教育の重要性等について周知することができた。			
		令和元年度への対策・対応	・預かり保育・プレ保育については、実施に向けての諸課題を整理するとともに、特に国の幼児教育無償化実施を踏まえた3年保育実施に伴うプレ保育のあり方を明らかにする。 ・職員研修については、引き続き幼児教育における喫緊の課題に即した研修を実施して、市全体で幼児教育の質を向上させる必要がある。併せて今後研修を担う幼児教育センター開設の準備を進める。また市民向けイベントも引き続き実施し、幼児教育の重要性等の周知を図る。			